

都市再生整備計画 事後評価シート 高山本線沿線地区

平成23年11月

富山県富山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	富山県	市町村名	富山市	地区名	高山本線沿線地区			面積	939ha					
交付期間	平成18年度～22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	5279.1百万円	国費率	0.412							
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 市道整備(67路線)、下水道(福島都市下水路)、地域生活基盤施設(駅前広場、観光案内板、駐輪場、駐車場)、高質空間形成施設(サイン施設、休養施設、歩行者施設)											
		提案事業	呉羽丘陵スロープカー設置事業、猪谷関所館(改修事業・展示ディスプレイ改修事業)、公共交通利用促進事業、まちづくり活動推進(コミュニティバス運行、フィーダーバス試行運行、高山本線利用促進事業、高山本線高頻度運行社会実験)											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(7路線)、下水道(福島都市下水路)、地域生活基盤整備施設(ポケットパーク、パークアンドランド駐車場)		事業内容の更なる検討が必要になったため		なし							
		提案事業	呉羽丘陵スロープカー設置事業、猪谷関所館(改修事業・展示ディスプレイ改修事業)、公共交通利用促進事業、まちづくり活動推進(大沢野地域フィーダーバス試行運行)		事業内容の更なる検討が必要になったため		なし							
	新たに追加した事業	基幹事業	道路(11路線)、公園(春日公園)、地域生活基盤整備施設(駐輪場整備2箇所、広場整備2箇所、駐車場整備2箇所)、笹津駅前歩行者施設整備、地域交流センター整備		高山本線の利用促進に関する包括的な事業整備のため魅力あるまちづくり整備をおこなうため		数値目標である沿線居住人口に貢献する							
		提案事業	トイレ整備事業(6箇所)、フィーダーバス購入、修景等補助、臨時駅整備、事業活用調査、まちづくり活動推進(乗合タクシー試行運行)		高山本線の利用促進に関する包括的な事業整備のため		数値目標である高山本線利用者数・八尾地域への観光客入込数に貢献する							
	交付期間の変更	当初	平成18年度～22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
		変更	平成 年度 ～ 年度											
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
		指標1	高山本線の乗車数	千人/年	1,013	H17	1,044	H22	1,100	1,112	○	あり なし	社会実験やフィーダーバスの導入等により高山本線の利便性が向上し、減少傾向にあった利用者が増加に転じた。	確定値
指標2		観光客入込数	千人/年	33	H17	39	H22	—	33	△	あり なし	まちなみ修景整備や歩行者空間の整備などにより観光拠点としての魅力を向上させた結果、事業開始後から観光客が増加したが、何度も訪れたいくなるような仕組み等がないため、近年では観光客が減少していると思われる。	確定値	
指標3		居住者数	千人	43	H17	44	H22	—	44	○	あり なし	沿線での街路、公園などの都市基盤整備や公共交通の利便性向上により、定住人口が増加している。	確定値	
指 標		単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期		
その他の数値指標1(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況														
その他の数値指標2														
4)定性的な効果発現状況	・駅前広場の美観向上や、結節機能の強化が図られた。 ・沿線自治振興会による自主的な利用促進への取り組みなど、まちづくり活動への地元の積極的な参加が見られた。 ・修景事業が進み、歴史を活かした街並みが整ってきたことで、観光地としての価値の上昇や、まちづくりに関する地元住民の共通認識が醸成された。													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等						
	モニタリング	指標1、2に関するモニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	事業効果分析を行い、事業内容や数値目標の達成について検証を行う。				
	住民参加プロセス	八尾まちづくり推進協議会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	協議会と連携し、魅力あるまちづくりを進める。				
	持続的なまちづくり体制の構築	婦中鶴坂駅利用促進協議会			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				●	公共交通の利便性の向上とまちづくりのあり方について協議を行っていく。				

様式2-2 地区の概要

高山本線沿線地区(富山県富山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

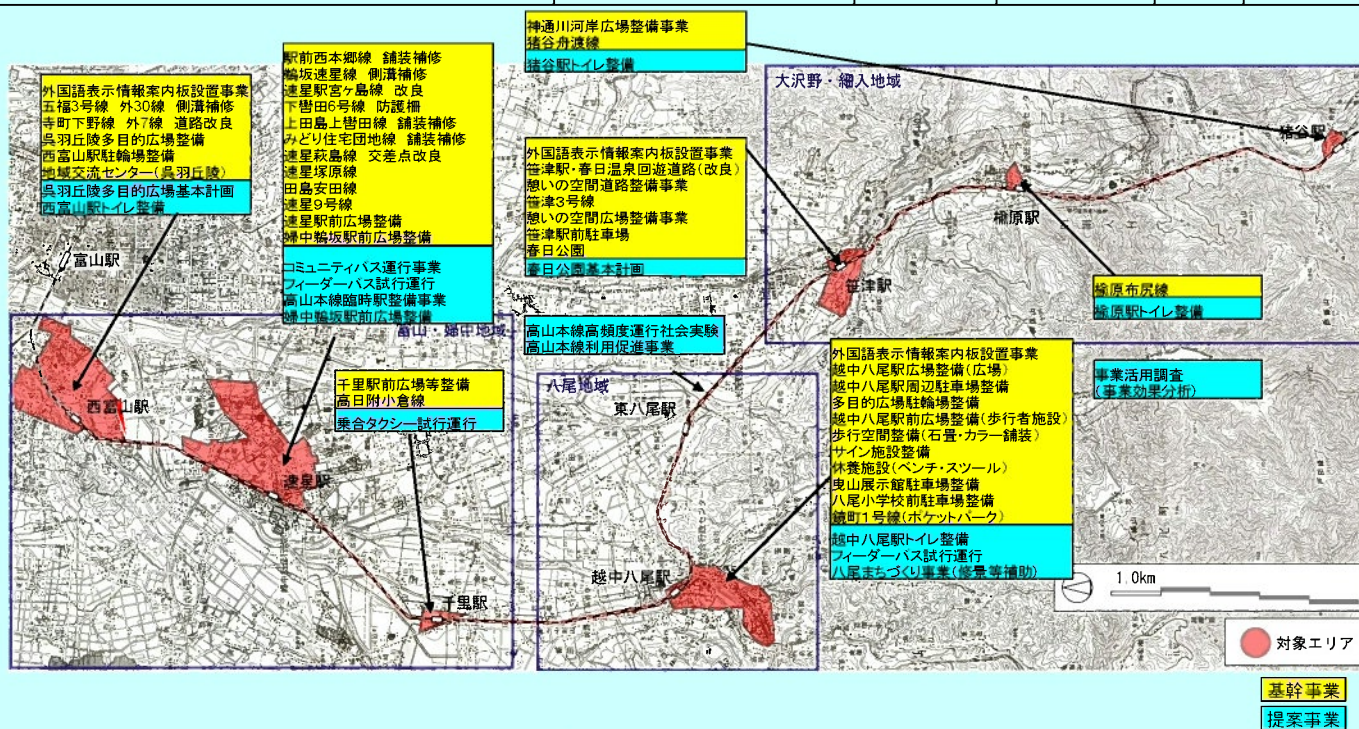
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標：高山本線沿線の活性化によるコンパクトなまちづくり 目標1：高山本線沿線駅を核としたコンパクトなまちづくりを進める。 目標2：八尾のおわらや古い街並みを活かし、観光客のさらなる誘導を図る。 目標3：街路、公園等の整備改善により鉄道駅への交通アクセス、住環境の向上を図る。	高山本線の乗車数	単位：千人/年	1,018	H17	1,044	H22	1,112	H23
	観光客入込数	単位：千人/年	33	H17	39	H22	33	H23
	居住者数	単位：千人	43	H17	44	H22	44	H23



高山本線臨時駅整備事業
(婦中鶴坂駅)



高山本線高頻度運行社会実験
高山本線利用促進事業



歩行者空間整備(石畳)



越中八尾駅前広場整備

まちの課題の変化	・高山本線において、これまで減少傾向が続いていた利用者数が下げ止まり、増加に転じた。 ・沿線の駅の利便性や周辺の魅力の向上が市民の居住地選択への動機付けとなり、居住者数の増加につながった。 ・八尾地区の観光資源をとりまく環境の整備に伴い、平常時の来訪者が増加した。	
今後のまちづくりの 方策 (改善策を含む)	・社会実験で効果の高かった時間帯の増発を行い、利便性の向上を図る。 ・婦中鶴坂駅利用促進協議会や高山本線婦中友の会等の沿線住民組織との連携を進めるとともに、沿線企業への働きかけを強め利用促進を図る。 ・社会実験駅であった婦中鶴坂駅を継続させる。 ・駅端末交通として定着してきたパーク＆ライトを継続していく。 ・「おわら風の盆」のブランド、坂のまちの景観を活かし、新幹線開業後の交流人口を呼び込むため、通年型の観光を推進する。 ・休日のまちめぐりバスは観光客の利用が増加していると考えられることから、越中八尾観光協会による運行継続を図る。 ・鉄道駅をまちづくりの中心として、周辺商店街等と連携しながら、イベント開催や滞在機能の強化、維持管理等を継続的に進める。 ・沿線地区の魅力的な住環境の整備を継続しつつ、市民に対しては鉄道を利用したライフスタイルの提案を行い、沿線居住への興味を喚起する。 ・人口が減少傾向にある駅勢圏については、今後全市的に都市機能の集約を検討していく中で、まちづくりのあり方を考えていく。	